

# 弟子屈町植生改善プロジェクトの取組

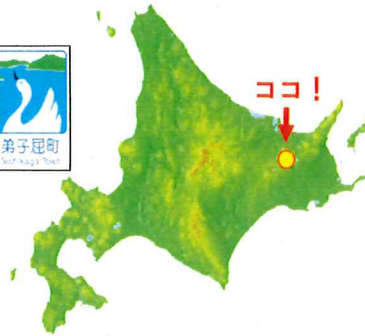
～7年間の成果と植生改善の体系化～

資料4

北海道釧路農業改良普及センター

## 弟子屈町データ

- 酪農家92戸
- 畑作農家17戸
- 出荷乳量 (H26)
- JA摩周湖55,000 t



## 対象地区

弟子屈町上仁多地区 13戸

## 活動期間

H23年～H29年

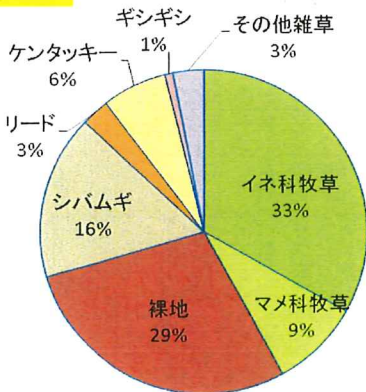
## 背景

規模拡大による粗飼料の安定確保

搾乳ロボットシステムで牛の行動を左右する粗飼料品質

新規参入者へ継承される草地の良否が経営の安定化を決める

## 現状



草種構成の割合

## 課題

### 【進まない理由】

#### 知らない

- 草地ごとの牧草割合が様々で印象が薄い
- 他の農家と比較しにくい

#### 二の足を踏む

- 植生改善の効果が理解できない
- 更新すると草地が足りなくなる、お金がかかる

#### 人や天気のせい

- 更新の失敗、施肥管理が出来ない
- 牧草や雑草の生理生態の理解不足

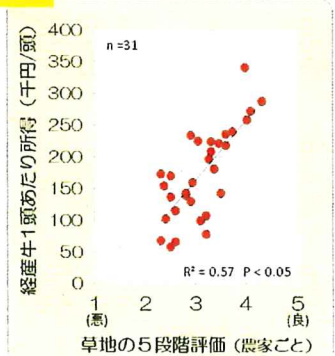
### 【その結果】

気が付いたら、草地の6割が裸地か雑草

更新率5% (20年に1回)

更新後6年で植生が悪化

## 目標



目標  
5段階評価「3」以上

## 植生改善プロジェクト始動！！(普及・JA 町・ホクレン・(株)雪印種苗)

## 経過

頭に残る！

5段階評価による植生把握

GISによる植生マップの活用

早くてカンタン！

更新計画の樹立

更新シミュレーション  
「草ナビ」の活用

植生調査

5/中～下旬

草地を5段階で評価



ほ場マップ作成

草地を色分け



更新計画

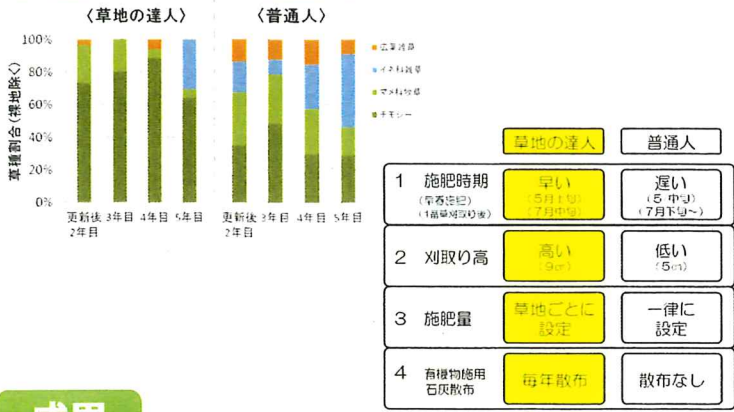
草ナビの活用

更新費用の算出  
更新順番の決定  
牧草生産量の確認



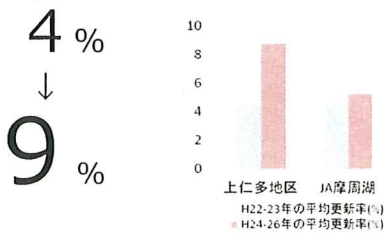
更新実施

## 草地の人々に学べ！維持管理の技術定着

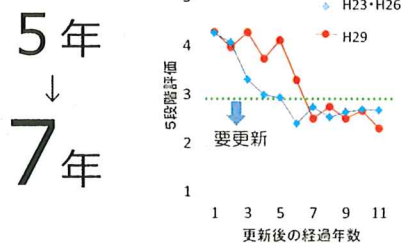


## 成果

### 草地更新 (地区平均)

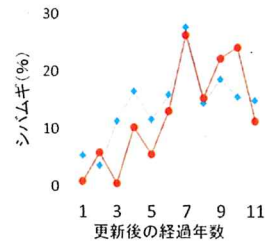


### 草地 (牧草率50%) の維持年数



### シバムギ (雑草)

## 抑制



## A農場の改善事例 H23年とH28年の比較

### 飼料用とうもろこしの導入

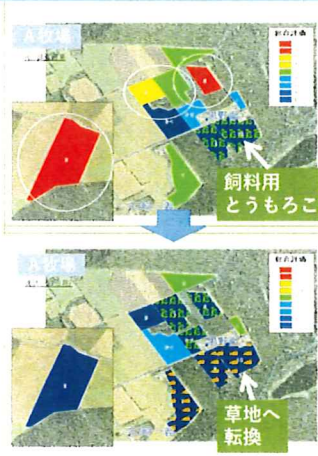
8ha → 15ha

### 更新率 (H21~23とH24~26の年平均の比較)

4% → 13%

### 草地の5段階評価

2.5 → 3.9



### 牧草収量・栄養を確保

↓ 乳牛の食いこみUP!!

↓ 個体乳量UP!!

8,598kg → 9,818kg

↓ 乳飼比低下

41 → 32

↓ 経産牛1頭あたり所得

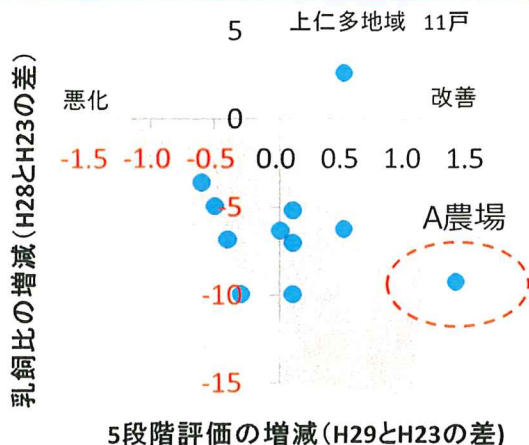
100 → 246 (H23を100とする)

## 所得増加

ここ数年、購入飼料の  
給与量は変えていない。  
時間はかかるが、植生改  
善は必ず所得向上に繋が  
る (Aさん)。



## 植生改善が進んだ農家ほど乳飼比が低下



## 地域の生産性が向上

	H23	H26	H29	H29 / H23
5段階評価	2.97	2.99	3.07	103
出荷乳量(t)	6,654	7,251	6,967	105
生産額(乳代+補給金、百万円)	537	647	689	128
経産牛1頭あたり所得(千円)	125	165	269	215
乳飼比(%)	39.0	38.7	32.4	83
※参考: 乳価(円)	80.6	88.7	98.3	122

## 植生改善は...

- ・農業所得を向上させる
- ・規模拡大や新規参入の成功を保証する
- ・関係機関の連携を強固にする

自給飼料に立脚する北海道酪農の未来のために普及が支援すべき取組である